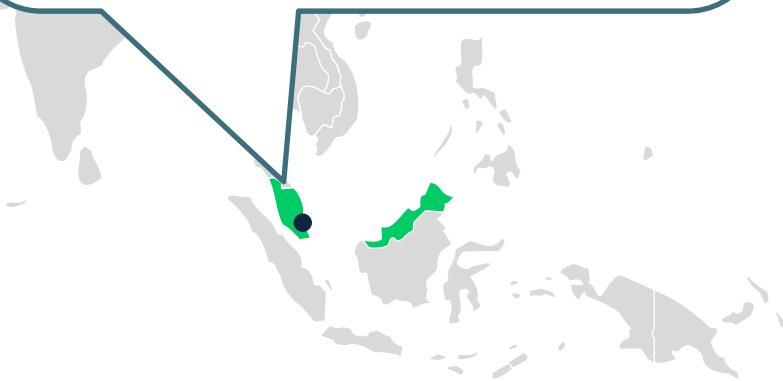


マレーシア国イスカンダル地域-北九州市に関する都市間連携

- 北九州市は、2015～2016年度にイスカンダル地域開発庁（IRDA）と都市間連携事業を実施してきた経緯があり、その実績を基に、両者は2016年8月に覚書を締結した。
- 2019年度～2021年度に実施した都市間連携事業から引き続き、マレーシア国イスカンダル地域における脱炭素化の促進、ならびに、それに寄与するJCM案件形成を目的に活動を実施してきており、本年度は新規事業の1年目となる。

マレーシア国イスカンダル地域

国立環境研究所、マレーシア工科大学、IRDA、京都大学などの国際研究チームによって「マレーシア・イスカンダル開発地域における2025年に向けた低炭素社会ブループリント」を策定。地域レベルの実践的な低炭素社会計画としてはASEAN諸国で初めての例で、アジア諸国の低炭素都市づくりのモデルケースとなることが期待されている

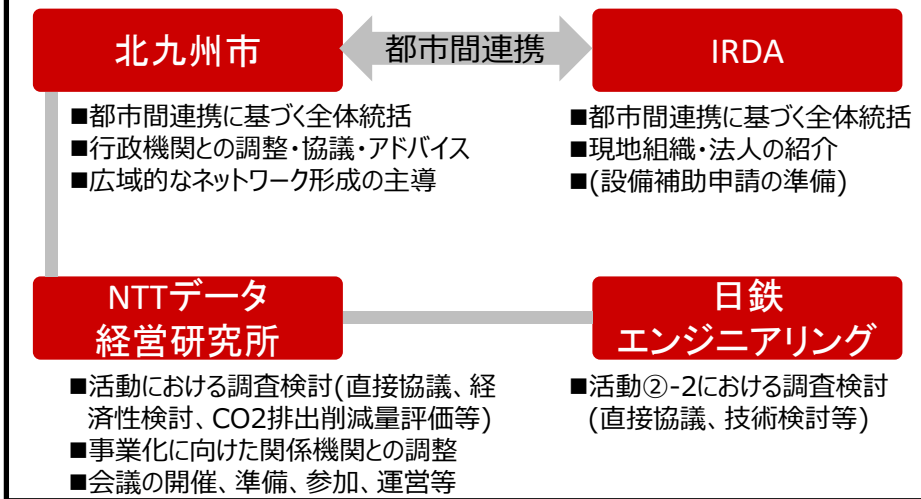


北九州市

アジア諸都市との環境国際協力ネットワークをベースに、北九州市の持つ脱炭素に関するノウハウを輸出し、世界の脱炭素化に貢献。また、令和2年にゼロカーボンシティ宣言を実施している

マレーシア国 Iskandar 地域-北九州市に関する都市間連携

【体制図】



【写真】



◀ IRDAとの面談の様子



▼ Seelong最終処分場の見学

【事業活動・成果】

活動① 産業部門の脱炭素化に向けた産業間連携プロジェクト創出検討

- 内容：IRDAを通じてマレーシア製造業連合会（FMM）と議論を行った後、産業間連携に関心の高い工業団地運営会社を特定。同運営会社と対面でディスカッションを実施（AME Development他）。
- 成果：マレーシアにおける工業団地の特性を把握するとともに、今後の産業間連携プロジェクト創出に向けた基盤を構築。

活動②-1 再エネ100%北九州モデルによる太陽光発電設備導入検討

- 内容：マレーシア国における再エネ導入に関する政策・規制等と再エネ100%モデルのニーズを調査。
- 成果：制度面での制約条件が存在していることを確認。産業部門、民生部門等の再エネ100%ニーズを把握。

活動②-2 ベースロード電源としての廃棄物発電設備導入検討

- 内容：廃棄物発電の対象サイトであるSeelong最終処分場へ現地調査を実施。コンセッション企業であるSWM Environmentとも協議を実施。
- 成果：廃棄物発電の導入検討に活用する搬入ごみ量についてデータを入手。また、ごみ質調査に合意を獲得する等、今後事業化検討を実施するための基盤を構築。